

MATERIAL

この植物の根を含む全体

FIRST PROVING

Green

AFFINITY

Onosmodium virginianum は、主に筋肉、神経系、生殖器系、脊椎などに作用します。左側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、Rutaと並び、とても効果的な眼精疲労のレメディの1つです。比較的長い期間にわたって投与することが多いレメディです。

■神経系

- ・ **眼精疲労**：視点がぼやけます。眼の使いすぎにより、眼球に圧痛があることがあり、重くこわばった感じがします。
- ・ **調節性眼精疲労**

- ・ 頭痛、片頭痛：眼の酷使や性欲減退などに起因します。とくに子供。主に左側。
- ・ 老眼初期の眼の痛み
- ・ 色盲
- ・ 慢性疲労症候群：いつも疲れて、人生の目標がぼやけているか見つかりません。下肢に力が入らず、しびれることもあります。

■生殖器系

- ・ **勃起不全**：心因性
- ・ **女性の不感症**：いつも月経が始まりそうな感じがすることがあります。
- ・ 性欲の消失：性的なことには非常に関心があります。

MODALITY

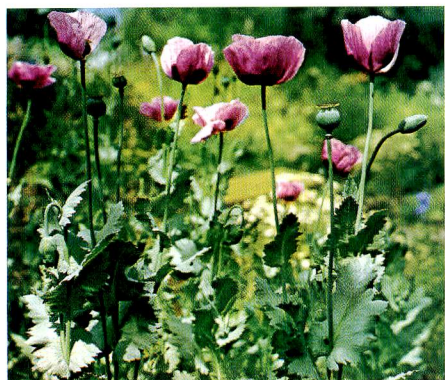
- ▶ 休息、睡眠、食事、冷たい飲物、服を脱ぐことなど
- ▶ 捻挫、眼の酷使、性交過多、暗闇、きつい服、暖かく湿った気候、階段を降りる動作、急な動きなど

Opium ケシ [神経の麻痺、無痛、便秘]

Papaver somniferum L.

BACK GROUND

ケシは、西アジア原産の2年性の植物で、夏から秋の初めにかけて、白色または紅色の大形四弁花が咲き、果実の部分は大型の楕円球形で、きわめて多数の微粒の腎臓形種子をもっています。茎は太く、直立して高さ1.5mに達します。



6,000年前には、すでにケシを表記する文字があり、快楽のための植物として取り扱われていたようです。また、4,000年前のスイスの遺跡からも、ケシの種子と果実が見つかっています。現在では、主にインド、イラン、トルコ、中国、オーストラリアに分布しています。植物名の由来は、ローマ神話に出てくる眠りの神「ソムヌス (somnus)」で、ソムヌスがケシの葉やケシのジュース (opos) をもっていたことに由来しています。この植物から精製されるモルヒネは、眠りの神Somnusの息子Morpheusに由来しています。

この植物は、医学的に非常に重要なアルカロイドをもっており、しかも人工的に合成不可能なために、各国で栽培や所持を厳しく制限されています。近年、脳内からモルヒネと同じ受容体に作用する、オピオイドペプチドが見つかっていますが、やはり化学合成することができません。ケシからは、もっとも強力な鎮痛剤であるモルヒネや、強い快楽性のあるヘロインなどが採れます。

夏に咲くケシの花弁が落ちた数日後の夕方に、未成熟な果実部分に水平に切り口を入れておきます。すると、白い乳液が流れ出てきて、果実の鞘の外側につくと硬化して褐色に変化してきます。翌日にそれを集めて手でよく捏ねてから乾燥させます。この乳液が Opium のレメディの原料となります。この原料の中には、多数のアルカロイドが存在しており（わかっているだけでも20種以上）、独特の匂いと苦い味がします。10本の蒴果から約1gのアヘンが採れます。その中に含まれるモルヒネの量は、およそ10～17%です。

一方、成熟した果実に含まれる種子には、まったく麻薬が含まれていませんので、パンやお菓子、カレー、鳥の餌などとして利用されています。種子の輸入に際しては、通関前に全量熱処理を行い、発芽しないものであることを確認の上、その証明書が発行され、その証明書が添付されなければ通関できません。それほどこの植物については、法律で栽培を禁じると同時に、栽培の可能性を消す厳重な管理体制がとられています。

マザーティンクチャーに含まれている成分は、非常に多岐にわたり複雑です。主な成分としては、次のようなものがあります。

- ・各種アルカロイド：その骨格構造によっていくつかのグループに分けられます。
- ・フェナントレン誘導体：モルヒネ、コデイン、セバインなど。これらは、主に神経系に作用します。
- ・イソキノリン誘導体：パパベリン、ラウダニン、ラウダノシン、ナルコチン、ナルセインなど。これらは、平滑筋の弛緩などの作用に関係します。
- ・各種有機酸：メコン酸、乳酸、アセチル酸、琥珀酸、酒石酸、マリク酸、フマル酸、クエン酸など
- ・各種無機酸
- ・その他：ラクトン、メコニン、ブドウ糖、レジン、各種蛋白質、各種酵素など

FIRST PROVING

ハーネマン（1805）

MIND

Opium を処方するタイプは、2タイプがあります。Opium のプルービングでも低用量と高用量、急性と慢性中毒では症状が異なります。中程度と重度の麻薬中毒患者の症状を思い浮かべると理解しやすいです。1つは神経過敏で落ち着きがなく、しばしば不眠になるタイプで、やや Nux vomica に似たところがあります。もう1つは、まったく無関心、無感覚、無感情になってしまっているタイプがあります。

Opium の人は非常に暑がりです。喉が非常に乾きます。食事はあまり摂らなくても、飲物はたくさん飲む傾向があります。睡眠はいびきをかくほど深いか、または非常に浅いかどちらかです。

AFFINITY

Opium は、主に精神、感覚、神経系、呼吸器系、消化器系に親和性をもっています。

CLINICAL APPLICATIONS

Opium は、臨床ではとくに**中枢神経系**によく使用します。神経の麻痺による無痛状態と感覚過敏が特徴です。次のような症例に対して適用されます。

■精神神経系

- ・ショックや外傷などから来る**極度の恐怖に起因する急性/慢性的な症状**：恐怖には Aconite をはじめ、多くのレメディがあります。恐怖から幻覚が出てくると Stramonium、極度の恐怖から放心状態になってしまった場合には Opium です。Argentum nitricum の恐怖は、過度に思いを巡らすことによる不安や恐怖、予期恐怖症です。Arsenicum album も神経過敏による不安や恐怖があります。このほか、Fear のレメディはたくさんあります。
- ・無痛状態：通常は痛みを感じるはずでも、痛みが感じられません。
- ・不眠症：わずかな音でも気になってしまいます。感覚が過敏になっています。
- ・ナルコレプシー（睡眠発作）
- ・新生児のショック：母親が妊娠中に経験した極度の恐怖が胎盤を通して胎児に伝わり、出生後に眠ってばかりいる乳児にも使用されます。
- ・昏睡状態：麻薬の使いすぎや発作や外傷、ショックなどによるもの。顔面は赤く充血しています。瞳孔は閉じていることが多いようですが、反応に乏しくなります。
- ・長引く外科手術後：麻酔の覚醒が悪かったり、消化管の運動が麻痺している状態
- ・一時的**精神錯乱状態**、心的外傷後ストレス障害
- ・てんかん
- ・頭部外傷、脳震とう、脳炎、髄膜炎、頭部外傷による麻痺状態
- ・高血圧：頭部の充血が特徴です。

■消化器系

- ・便秘：排便感覚がなく、便が硬く黒く小さな固まりになっている例。便を出そうとしても、最後の出口の所でスルッと奥へ戻ってしまうことがあります。
- ・新生児の便秘：出生時のショックから便秘になった

場合にも使います。

- ・下痢：極度の恐怖や興奮により誘発されたもの。
- ・術後イレウス：嘔吐を伴う例も多いようです。
- ・舌の麻痺
- ・腹部の痙攣

■泌尿生殖器系

- ・尿滞留、尿失禁：恐怖の後で発病します。乳児の場合は、母親の恐怖で始まることがあります。
- ・生理不順：恐怖から生理が止まってしまったとき。
- ・遺尿症：トイレトレーニング中の乳幼児で、恐いショックによって発病したもの。
- ・子痲
- ・陣痛停滞

■呼吸器系

- ・いびき
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・昏睡状態におけるチェーン・ストークス呼吸

MODALITY

▶ 涼しさ、歩き回ること、ときにブラックコーヒー

など

◀ 暑さ、睡眠中とその後、アルコール、恐怖や不安など

Opiumの適応なのに反応に乏しい場合、LycopodiumやSulphurなどを使うとよいケースもあります。便秘には比較的低いポテンシーを使い、急な極度の恐怖には高いポテンシーを使います。

RELATIONS

- ・Antidoted by：コーヒー、Atropine、酸素吸入、Camphora、Belladonna、Ipecacuanha、Nux vomica、Chronic Opium poisoning

●Opiumの成分からつくったレメディ

Morphinae acetas $C_{17}H_{19}O_3N \cdot C_2H_4O_2 \cdot 3H_2O$, Morphinum $C_{17}H_{19}NO_3 \cdot H_2O$, Morphinum aceticum $C_{17}H_{19}NO_3 \cdot C_2H_4O_2 \cdot 3H_2O$, Morphinum muriaticum $C_{17}H_{19}NO_3 \cdot HCl \cdot 3H_2O$, Morphinum sulphuricum $(C_{17}H_{19}O_3N)_2H_2SO_4 \cdot 5H_2O$, Narcotinum $C_{22}H_{23}NO_7$, Codeinum $C_{18}H_{21}NO_3 \cdot H_2O$

Origanum majorana スイートマジョラム [強い性欲、走りたい衝動、早熟]

Origanum majorana L.

Majorana hortensis Moench

BACK GROUND

Origanum majoranaは、北アフリカ、中東、地中海東部沿岸地方原産で、シソ科オリガナム属の半耐寒宿根多年草であるスイートマジョラムです。属名のOriganumは、ギリシア語のOros山、とGanos輝きや喜びという語に由来します。

草丈20～60cmで、茎は四角形を呈し、分枝しています。茎と葉は、綿毛で覆われています。葉は有柄対生で、長さ7～30mmの楕円形。辺縁に鋸歯があります。開花期は、夏の終わりから秋にかけてで、白い小さな花を丸い穂状花序に咲かせます。

この植物は、やや甘い香りがします。この芳香は、収穫乾燥後もいつまでも香りが残ることから、古くから料理用のハーブとして利用されてきました。また、部屋の芳香剤や消毒剤としても用いられたり、冠婚葬祭の儀式に用いる地方もあります。

メディカルハーブとしても古くから用いられ、外傷

や筋肉痛、風邪、消化器疾患、呼吸器疾患などに幅広く用いられてきました。主な薬効には、抗炎症作用、去痰作用、鎮痛作用、鎮痙作用、利胆作用、健胃作用、降圧作用、抗菌作用、抗ウイルス作用、抗酸化作用、抗性腺刺激作用などがあります。

主な有効成分には、アルブチン、カルボン、 β -カロチン、カルパクロール、ゲラニオール、ヒドロキノン、リノレイン酸、ナイアシン、フェノール、ヒドロキノン、リボフラビン、タンニン、サポニン、アピゲニン、フィトステロール、カフェイン酸、オレアノール酸、オレイン酸、テルピネン4オール、テルピネン、リモネン、リナロール、 α -ピネン、サビネン、各種ミネラル（とくに、銅、亜鉛、カルシウム、鉄、マグネシウム、チアミン、カリウム、リンなど）、各種ビタミン（とくにC）などがあります。